【様式　１】

確かな学力を育む高校教育推進事業　事業計画書　[平成２４年度]

１　学校の概要

学校名	北海道　天　塩　高等学校　（全・定）	校長名	中　川　尚　之

学科名	生徒数（参考：H24 年 5 月 1 日現在）					教員数（参考：H24 年 5 月 1 日現在）		
	１年	２年	３年	４年	計	国　語：２名	保　体：２名	（専門教科）
普通科	４９	５２	５０		１５１	地　歴：１名	芸　術：１名	商　業：１名
						公　民：１名	外国語：３名	：　名
						数　学：２名	家　庭：１名	：　名
						理　科：２名	情　報：０名	計　１６名

確かな学力に関する学校の課題	○本校の概況 【平成２３年度学力等実態調査結果】 ■通過率　国語５７．４％　数学５０．５％　英語３６．３％ ■学習状況等調査　・授業がだいたい分かる　６０．３％　・家庭学習ほとんどしない　３０.２％ ・学習に対する意欲がある　１４．０％　・勉強すれば進路に役立つと思う　７６．７％ 【入学者選抜学力検査結果】　22 年度 123.9 点　23 年度 131.4 点　24 年度 123.5 点（平均点） 【平成２３年度成績評価】

		3 学年	2 学年	1 学年
成績上位者	前期末	１９名	７名	１７名
	後期末	２３名	１６名	１６名
成績下位者	前期末	0名	６名	５名
	後期末	0名	１名	１名

【平成２３年度進路決定状況】　国公立大学３名　私大・短大１３名　専門学校・看護学校２１名
※進路決定状況はここ数年間、全就職希望者内定を含む１００％を実現している。

○本校の課題

非常に素直な生徒達に恵まれた学校ではあるが、留萌管内北部唯一の普通科高校として幅広い学力層の生徒を抱えている現状である。学習能力や学習意欲、家庭学習習慣などに大きな格差を抱えた集団であるため、生徒個々の進路実現をはかるカリキュラムの編成や、授業の工夫・実施に苦慮する状況となっている。

このよう状況下において、成績上位層をさらに伸ばし、成績下位層のレベルアップを図ることで授業全体の水準を向上させていくには、基礎学力の定着と家庭学習や主体的に学ぶ習慣を育むことが必要不可欠である。

ついては、課題解決に向けて「各教科等における、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る指導方法等の工夫・改善」を実践研究テーマとして、生徒の確かな学力向上に向けた研究推進と実践を図る。

２　実践研究計画等

(1) 共通研究課題（平成２３～２４年度）

項　目		具体的な取組の方策
ア	学力等実態調査を活用した学力の把握と授業改善	○「学力等実態調査」の実施 ・実施教科における調査結果の分析による課題の明確化 ○各教科における授業改善の方策の検討 ○校内研修会における授業改善の方策の検討 ・分析結果、各教科の指導上の課題について説明する。 ・課題解決のための具体的な方策について提案する。 ・提案内容に関する研究協議 ○研究授業の実施 ・課題解決に向けた研究授業の実施 ・アンケートや研究協議などにより様々な観点から受けた評価を授業改善に結び付ける。 ○生徒による授業評価への反映 ・課題解決の方策を評価できるような評価項目の設定
イ	生徒や教員相互による授業評価などを活用した、PDCA サイクルに基づく授業改善	○生徒による授業評価の手法の確立 ・前期末に生徒による授業評価を行い、年度末に、マネジメントサイクル（ＰＤＣＡサイクル）に基づく授業改善が行われたか検証する Ｐ：指導計画、評価計画の作成 Ｄ：計画に基づく授業の実施 Ｃ：生徒による授業評価（９月、１月） Ａ：校内研修会の実施（評価の結果に基づく改善方策の検討）
ウ	学習習慣の定着や学習意欲の向上のための指導方法、	○学習習慣の確立へ ・学習オリエンテーションによる啓蒙 ・週末課題や朝学習の実施と評価の研究・実践 ・３科目コンクールの実施・表彰 ○学習意欲の向上 ・視聴覚教材の活用 ・習熟度別学習の指導内容及び課題・評価の工夫 ・生徒が主体的に学ぶ授業の研究・実践
エ	到達目標の設定及びその目標を踏まえた評価規準の見	○多角的な基準による評価の工夫・実践 ・定期考査等による評価の工夫 ・授業における評価の工夫 ○学校評価（自己評価、学校関係者評価（保護者、学校評議員、地域））を生かした授業改善 ・到達目標や評価規準の工夫改善

(2) 実践研究

実践研究テーマ	各教科における、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る指導方法等の工夫・改善	
実践研究教科等	具体的な実践研究内容	
◎地理歴史科 公民科	23 年度	地歴・公民科において次の実践研究に取り組む 〈全学年〉 ○シラバスの活用による指導方法の研究 ・学習への動機付けを図り、計画的・意欲的な学習活動を支援する学習指導の工夫 ・ノートの取り方・作り方、家庭学習の取組、授業理解につながる学習指導の工夫 ・「聞く」「書く」「読む」「話す」場面を考慮した学習指導の工夫 ○効果的な学習指導に関する研究 ・個に応じた指導方法の工夫 ・基礎学力定着のため方法の工夫 ・学習意欲を喚起する授業・評価の工夫 ・学習習慣確立のため課題・評価の工夫 ○授業改善に生かすための的確な評価方法の研究 ・生徒による授業評価の工夫・実践 ・校内研修会における授業形態・評価方法の研究
	24 年度	地歴・公民科において次の実践研究に取り組む 〈全学年〉 ○シラバスの活用による指導方法の研究 ・学習への動機付けを図り、計画的・意欲的な学習活動を支援する学習指導の改善 ・ノートの作り方、家庭学習の取組、授業理解につながる学習指導の改善 ・「聞く」「書く」「読む」「話す」場面を考慮した学習指導の改善 ○効果的な学習指導に関する研究 ・個に応じた指導方法の検証と改善 ・基礎学力定着のための方法の検証と改善 ・学習意欲を喚起する授業・評価の検証と改善 ・学習習慣確立のための課題・評価の検証と改善 ○授業改善に生かすための的確な評価方法の研究 ・生徒による授業評価の検証と改善 ・校内研修会における授業形態・評価方法の検証と改善

(3)　目標指標

指　　標	評価の方法	２年後の期待される成果
○生徒の学力把握の状況	・「学力等実態調査」の調査結果	・通過率が国語・50.0%数学50.0%英語40.0%に到達する。
	・「学習状況等調査」の調査結果	・家庭学習時間が１時間以上の生徒の割合が 100 %に達する。 ・項目「学習に積極的に取り組む意欲がある」に肯定的に回答する生徒が 20 %増加する。
	・学習の成績	・成績上位者数が学年の 50 %に到達する。 ・成績不振者数が減少する。
	・各種検定試験等の受検者数と合格率	・受検者数・合格率が 10 %増加する。
	・生徒による授業評価の評価結果	・項目「授業の内容がわかる」に肯定的に回答する生徒が 80 %に到達する。
○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るための取り組み状況	・各種研修会への参加状況	・参加・出席者が増加する。
	・シラバスにおける基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に関する記載内容	・全科目のシラバスに基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を評価する記載をする。
	・生徒による授業評価において、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に関する項目の評価結果	・項目「授業において、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができた。」に、肯定的に回答する生徒が 100 %となる。
	・校内研修会の内容	・生徒による授業評価について年１回実施する。
	・公開授業週間の実施と授業評価の活用	・授業評価の結果及び合評会の活用による授業改善プログラムの確立。
	・朝学習等の実施による学習習慣の確立	・学年団による実施で全校生徒の学習習慣を確立する。